宿屋の亭主　ほんとうのものだ。――ほんとうのごちそうだ。……

宿屋のかみさん　おまえさん、聞いてごらんなさい。――どういうわけだか聞いてごらんなさい。

宿屋の亭主　うん、聞いてみる。聞いてみる。――（ブウツのそばにまたよって）お客さま、いったい、ど、どういうわけでございます。

ブウツ　（たべながら）どういうわけもありません。――このテイブルかけ、魔法のテイブルかけです。

宿屋の亭主　魔法の……？

ブウツ　「北風」のおじいさんからもらってきたんです。「北風」のおじいさん、ぼくのお米を、ぼくの手からみんな吹きとばしてしまったかわりに、気のどくだといってこれをぼくにくれたんです。

宿屋の亭主　お米をふきとばしたというのは……？

ブウツ　十日ぐらいまえです。――夕方、おかアさんにいわれて、その晩たべるお米をうらへ出しにいったんです。――みると、もう、その晩たべるだけ、ひとつかみしきゃアいれものの中にないんです。……

宿屋の亭主　……（うなずく）

ブウツ　だいじにそれをもって、台所の方へかえろうとすると、きゅうにピューッと北風がふいて

来ました。――ぼく、とばされちゃアたいへんだと思って、両手でしっかりにぎっていたんです。……

宿屋の亭主　……（うなずく）

ブウツ　と、また、ピューッと、まえより強いやつがふいて来ました。――あッと思って、ぼく、よけようとするはずみに、うっかり手をゆるめてしまったんです。……

宿屋の亭主　……

ブウツ　（がっかりしたように）ふきとばされてしまいました。――一粒も残らず。……

宿屋の亭主　……

ブウツ　ぼく、すごすごと、おかアさんのところへかえりました。――おかアさんにあやまりました。おかアさんは、けど、しかりませんでした。――ぼくのおかアさんはほんとうにいいおかアさんです。

宿屋の亭主　でも、それっきりしかお米がなかったんじゃア、お困りでしたろう？

ブウツ　おかアさんはお腹がいっぱいだから晩の御飯はいらないといいました。――ぼくには、そういって、あしたの朝にとってあった牛乳をくれました。――（元気よく）それをのんだら、ぼく、きゅうに威勢がつきました。

宿屋の亭主　（つりこまれて）威勢が……？